

ネットメロン病害虫防除暦
防除体系(登録薬剤)

JA庄内たがわ 2025年度版
2024年12月11日時点の農業登録情報をもとに作成

防除時期	対象病害虫	RAC コード	登録農薬名	希釈倍数・使用量	水100%当たり薬 剤量	使用時期	使用回数	備 考
定植前	コガネムシ類幼虫 ネグサレセンチュウ・ネコブセンチュウ	I:8A	DC油剤(劇)	20%/10a (1穴当たり2ml)	-	作付の 10~15日前まで	1回	全面処理又は条作処理(D-Dを含む農薬の総使用回数1回)
	一年生雑草・つる割病・センチュウ類	I:8F, I:8A	ディ・トラベックス油剤(劇)	30リットル /10a	-	は種又は 植付の30日前まで		圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12~15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。 薬剤処理7~14日後にガス抜き作業を行う。 (D-Dを含む農薬の総使用回数1回)
育苗期	斑点細菌病、果実汚斑細菌病、炭疽病、べと病	F:M01	キノンドー水和剤40	800倍	125g	収穫10日前まで	5回以内	
	疫病・炭疽病・つる枯病・斑点細菌病・べと病	F:M03	ジマンダイセン水和剤※1	400倍	250g	収穫7日前まで	5回以内	※生育期にも記載あるため、使用回数超過に留意 カンパネラ水和剤と合わせて5回以内
定植期	アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類	I:28	ベリマークSC	薬量	希釈水量	育苗期後半 ~定植当日	灌注1回	
				400株当たり25ml	400株当たり10~20L			
生育期 (殺菌剤)	疫病・炭疽病・つる枯病・斑点細菌病・べと病	F:M03	ジマンダイセン水和剤※1	400倍	250g	収穫7日前まで	5回以内	※育苗期にも記載があるため、使用回数超過に留意 カンパネラ水和剤と合わせて5回以内
	つる枯病・菌核病	F:2	ロブラール水和剤	1,000倍	100g	収穫前日まで	4回以内	
	つる枯病・うどんこ病	F:M07	ベルコート水和剤	1,000倍	100g	収穫前日まで	5回以内	
	つる枯病・菌核病・陥没病	F:1	トップジンM水和剤	1,500倍	66g	収穫前日まで	3回以内	※前日までの登録ですが、収穫間際の使用は避けてください
	つる枯病・べと病	F:40, F:M05	プロポーズ顆粒水和剤※2,3	1,000倍	100g	収穫3日前まで	5回以内	フォリオゴールド、カンパネラ水和剤と合わせて5回以内
	つる枯病・うどんこ病・べと病	F:4, F:M05	フォリオゴールド※2	800倍	125g	収穫3日前まで	3回以内	プロポーズ顆粒水和剤と合わせて5回以内
	斑点細菌病、軟腐病、褐斑細菌病	F:M01	コサイド3000	2,000倍	50g	-	-	野菜類での登録
	斑点細菌病・うどんこ病・果実汚斑細菌病	F:24, F:M01	カスミンポルドー	1,000倍	100g	収穫3日前まで	5回以内	ネット完成後
	つる枯病・うどんこ病・べと病	F:11	ストロビーフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	ネット完成後
	べと病	F:40, F:M03	カンパネラ水和剤※1,3	1,000倍	100g	収穫7日前まで	5回以内	ジマンダイセン水和剤、プロポーズ顆粒水和剤と合わせて5回以内
	べと病	F:21	ランマンフロアブル	1,000倍	100ml	収穫前日まで	4回以内	
うどんこ病・つる枯病	F:7	アフエットフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内		
うどんこ病・陥没病・つる枯病	F:3	トリフィン水和剤	3,000倍	33g	収穫前日まで	5回以内		
生育期 (殺虫剤)	アザミウマ類、ウリノメイガ、オオタバコガ、コナジラミ類 ハスモンヨトウ、ハダニ類、ハモグリバエ類	I:30	グレーシア乳剤	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	
	アザミウマ類・アブラムシ類・コナジラミ類・ハダニ類	I:23	モベントフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	
	アブラムシ類	I:4A	モスピラン顆粒水溶剤(劇)	8,000倍	12g	収穫3日前まで	3回以内	ネオニコチノイド(ミツバチへの影響を考慮し、着果後に使用)
	アブラムシ類	I:9B	チェス顆粒水和剤	5,000倍	20g	収穫3日前まで	4回以内	
	アブラムシ類・ハダニ類	I:3A	アーデント水和剤	1,000倍	100g	収穫前日まで	5回以内	ピレスロイド系★(希釈倍数750倍 ミナキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ適用あり)
	アブラムシ類・コナジラミ類	I:29	ウララDF	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	
	アブラムシ類、※コナジラミ類	I:4C	トランスフォームフロアブル	※2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	※希釈倍率1000~2000倍でコナジラミ類適用あり
	ハダニ類	I:21A	ダニトロンフロアブル(劇)	1,000倍	100ml	収穫前日まで	1回	
		I:20B	カネマイトフロアブル	1,000倍	100ml	収穫前日まで	1回	
		I:6	コロマイト乳剤	1,000倍	100ml	収穫前日まで	2回以内	展着剤使用しない(コナジラミ類、ハモグリバエ類にも適用あり)
I:10B		バロックフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内		

○使用時期の「収穫の前日まで」とは、薬剤散布を終了した時刻より
24時間を経過するまで、収穫出来ないことを示します。

○高温時の散布は薬害を引き起こすので注意してください。

○交配3日前から交配2週間後までの幼果の時期には、薬剤散布をしないでください。

○ハダニ類は薬剤抵抗性が発現しやすいので同一薬剤の連用を避ける。

☆適正管理について☆

1. 病害虫の発生状況・予察に留意しながら予防・発生初期防除を心がけましょう。
2. 適切な栽植密度とし、通風・作業性をよくしてください。
3. 圃地の適切な排水管理に努めてください。
4. 病害虫の温床となるものについては随時・適切に処理してください。
5. ドリフト軽減ノズルや防葉ネット等を出来る限り使用してください。
6. みつばちへの配慮を行いましょ。

★【合成ピレスロイド剤使用上の留意点】

合成ピレスロイド剤(合ピレ)は、使用回数が多いと、抵抗性害虫が出現する可能性があるため、
使用回数には注意してください。(使用は発生の多い場合にするなど、控えめに。)

防除器具の農薬残留に留意！！

- ・防除器具は、前回散布後に充分洗浄したか確認し、散布当日も 薬剤調整前にもう一度通水し洗浄しましょう。
- ・防除器具は使用後、通水で3回以上洗浄しましょう。
- ・洗浄水は川や下水等に流さないようにしましょう。

- ※1 マンゼブを含む薬剤の総使用回数に注意(5回以内)
- ※2 T P Nを含む薬剤の総使用回数に注意(5回以内)
- ※3 ベンチアバリカルブイソプロピルを含む薬剤の
総使用回数に注意(5回以内)